

平成29年度ホタテガイ採苗通報(第8報)

平成29年6月1日



宮城県

気仙沼水産試験場 TEL:0226-41-0652 FAX:0226-41-0743
 E-mail:kssuisi@pref.miyagi.lg.jp
 HP: http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/kesenmuma-s/
 Facebook: https://www.facebook.com/kesuishi
 気仙沼地方振興事務所水産漁港部 TEL:0226-22-6852
 水産技術総合センター TEL:0225-24-0130
 県漁協各支部青年部・研究会

県北中部のほぼ全域で付着稚貝数が増加しています

《調査結果の概要》 調査日:5月22~31日

○北部海域(唐桑~歌津)

- 各調査点の表層水温は13.4~15.4℃, 10m層水温は11.0~12.7℃でした。
- 10m曳での浮遊幼生数(大型)は, 岩井崎及び唐島(大島), 蔵内(本吉)で先週より増加し, それぞれ19個体/m³, 15個体/m³, 35個体/m³, 只越(唐桑)では19個体/m³と先週とほぼ同じ, 大前見(大島)では8個体/m³と先週より減少しました。
- 試験採苗器(垂下期間:5~9日, 垂下水深:10m)への稚貝付着数は, 只越(唐桑), 岩井崎, 蔵内(本吉)で先週より増加し, それぞれ1,305個体/袋, 936個体/袋, 1,155個体/袋でした。

○中部海域(北上~女川)

- 各調査点の表層水温は12.0~18.3℃でした。
- 10m又は15m曳での浮遊幼生数(大型)は, 出島(女川)で4個体/m³と先週より増加し, 大指沖(十三浜)では15個体/m³と先週とほぼ同じでした。
- 試験採苗器(垂下期間:7~20日, 垂下水深:8~20m)への稚貝付着数は, 出島(女川)で3,105個体/袋と先週より増加, 寺間(女川)では先週とほぼ同じで1,108個体/袋でした。また, 小滝沖(十三浜)では1,750個体/袋でした。

○その他(ムラサキガイ等)の浮遊幼生等

- 北中部海域でムラサキガイ等の浮遊幼生が多く見られました。なお, 試験採苗器内にもムラサキガイ等の付着稚貝が多く見られました。

表 浮遊幼生数及び付着稚貝数

調査点 調査月日	水温(℃) 表層/10m	採取方法 (プランクトンネット)	ホタテガイ浮遊幼生数 個体/m ³		その他(ムラサキガイ等) 幼生数 個体/m ³	ホタテガイ付着稚貝数 個体/袋 (投入日-回収日; 垂下水深)
			250ミクロン未満 (小型~中型)	250ミクロン以上 (大型)		
北部海域(唐桑~歌津)						
只越(唐桑) 5/31	15.4/12.6	10m曳	47	19	68	1,305 (5/22 - 5/31; 10m)
		20m曳	60	26	56	1,248 (5/22 - 5/31; 20m)
岩井崎 5/29	14.5/11.6	10m曳	44	19	63	936 (5/22 - 5/29; 10m)
大前見(大島) 5/29	13.4/11.0	10m曳	21	8	21	
唐島(大島) 5/29	14.2/11.5	10m曳	32	15	40	
蔵内(本吉) 5/31	14.3/12.7	10m曳	48	35	71	1,155 (5/22 - 5/31; 10m)
中部海域(北上~女川)						
大指沖(十三浜) 5/30	- / -	10m曳	42	15	108	
小滝沖(十三浜) 5/30	- / -	-	-	-	-	1,750 (5/10-5/30; 8m)
出島(女川) 5/22	14.0/ -	15m曳	20	4	171	3,105 (5/22-5/29; 10m)
寺間(女川) 5/22	12.0/ -	-	-	-	-	1,108 (5/22-5/29; 15m)

県外情報

青森県(6/1): 付着数が非常に多く, 目に見えるサイズとなっている所では間引きを始めるよう呼びかけ。
 岩手県(5/31): 稚貝の付着が継続。

次回の通報発行は6月8日頃の予定です。